

動物用医薬品 カナマイシンに係る食品健康影響評価に関する審議結果(案)についての御意見・情報の募集結果について

1. 実施期間 平成19年4月19日～平成19年5月18日
2. 提出方法 インターネット、ファックス、郵送
3. 提出状況 1通（1通に複数意見の記載の場合あり）

	御意見・情報の概要	専門調査会の回答
1	<p>○38年程前になります。製薬メーカーに勤務し病院廻りのプロパーという職業に就いていました。当時カナマイシンは明治製菓より販売されていましたが、医療用として殆ど使用されていないような記憶があります。当時抗生物質は薬価も高いために各社競争して開発しており病院側も薬価差が取れる高額な抗生物質を多量に使用していました。欧米諸国では考えられないような使い方をしていた。抗生物質の開発は激化し各担当者に全国の土を集めるような指示もありました。高知県の土からできたのがジョサマイシンと言われており又薬業界は物質特許でなくて製造特許のため殆ど同じ製品とか同系列の誘導体の抗生物質が出回りました。耐性菌をつくるのも早く又その時位から多剤耐性菌の問題が持ち上がり同系列の抗生物質だけでなく抗生物質の投与により腸内細菌の大腸菌にプロセミドを通じ耐性菌となり進入した菌を耐性菌にする。当時病院内では緑膿菌が非常に問題になっていました。緑膿菌はグラム陰性の菌で弱い菌であるが周りの菌を抗生物質で殺すので耐性され抗生物質の効かない緑膿菌が増えていた。現在でも病院内ではMRSAと緑膿菌が問題されています。又当時新薬の抗生物質は薬価も高く病院の切り札として使用されると使用量も少なくなる為に開業医とか病院でファーストチョイスで使用をお願いしていました。大学病院の医師からよく言われたのは切り札にしていた抗生物質を開業医で使用されるので大学に送られて来た時には効く薬剤がない。又動物薬担当者の話によれば採卵用の鶏では4日に3個産み3日に2個では殺されるブロイラーは普通3カ月かかるが2カ月で出荷・養殖業者は成長を早めるために大量の抗生物質を使用するとの事でした。このように耐性菌を抑えるために最後の切り札としてバンコマイシンとかカナマイシンが使用されている。現在成長を早めるとか形質転換トマト種子・種なしぶどうをつくるために簡単に使用する事は将来の人類の破滅を起す危惧があります。最後に</p>	<p>○今回、カナマイシンについてはリスク管理機関から評価の要請を受け、一日摂取許容量(ADI)の設定もしくはその可否についての評価を実施しました。</p> <p>薬剤耐性菌に係る問題については、すでに「家畜等への抗菌性物質の使用により選択される薬剤耐性菌の食品健康影響に関する評価指針」を作成しており、これに従い、最新の科学的知見に基づいて順次評価を実施しているところです。</p> <p>なお、抗生物質については、リスク管理機関で薬事法又は飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律に基づき、適切に管理され使用されていると承知しております。また、お寄せいただいた意見につきましては、リスク管理機関にお伝えいたします。</p>

	<p>各製薬メーカーは抗生物質の開発は耐性菌のスピードに追いつかなくなり採算性が悪い為に後退しているとの事です。</p>	
--	--	--